

令和4年度 学校経営計画・学校評価シート

高知県立日高特別支援学校高知みかづき分校

《高知県の教育の基本理念》	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	《目指すべき姿》	学校像 生徒一人一人がその能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し、意欲的、主体的に社会参加していくことができる人間を育成する。 ① 子どもたちが楽しく学べる学校 ② 保護者が安心して子どもを任せられる学校 ③ 地域にとってなくてはならない存在の学校 ④ 教職員一人一人が力を発揮できる学校	目指すべき取組姿の概要現に	◎ ステップアップシートを最大限に活用した生徒の自立支援 ○ ステップアップシート取扱の習熟と改善、PDCAの確立 ・ 校内の学習と現場実習のPDCAの確立 ・ 生徒の社会的行動の確立とソーシャルスキルの確立 ※ SST、学級会議の開催、仲間同士の関わりの中で、人間関係の維持・形成を図る。 ○ 就労支援 ・ 作業学習の改善、職場見学、ビジネスマナー、地域の事業所での就労体験、現場実習先の拡大、新規作業種の設置準備 ○ 地域連携 ・ 地域のイベントへの参加、地域での清掃活動、ボランティア活動の推進
《取組の方向性》	《6つの基本方針》 ①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働 ⑤就学前教育の充実 ⑥学び続ける環境づくりと安全・安心な教育基盤の確保 《6つの基本方針に関わる横断的な取組》 ①不登校への相応的な対応 ②学校における働き方改革の推進	《目指すべき姿》	「明るくたくましく生き抜く力をもった生徒を育てる」 ① 自己決定できる生徒(見つけよう！なりたい自分) ② 自ら就労を目指す生徒 ③ 生活習慣が確立し社会的行動ができる生徒 ④ 地域と連携し、貢献できる生徒		

《重点取組項目》

項目		取組ねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】			
専門性の向上	必要となる資質の向上を目指す生徒の育成に	生徒一人一人の「実態を把握する力」及び「指導力」の向上を目指す。	【現状】 ①作業学習等におけるキャリア教育の視点を踏まえた授業改善に取り組む必要がある。 ②心身面に課題があり、不登校傾向のある生徒が増加してきている。 ③各授業でのICT活用及び教材づくりは進んできているが、双方向通信を活用した授業は行えていない。 【評価指標】 ①キャリア教育の視点に基づいた、授業づくり・授業改善を行うことができたか。 ②不登校傾向のある生徒への適切な支援を行うことができたか。 ③ICT機器を活用した授業の充実及びパソコンを使った双方向通信授業の取組を進めることができたか。	①生徒のキャリア発達を促進していくために、「キャリア教育戦略会議」を開催し、企業及び事業者から、本校の作業学習等の授業における改善点について助言を受ける。 ②生徒の現状を教師間で共有し、学校全体で支援方法を検討していくとともに、SC、SSWとの連携を図りながら、生徒や家庭への継続的な支援を行っていく。 ③県のGIGAスクールサポーターの助言を受けながら、Chromebookを使用した双方向通信授業の実施に向けての研修・実践に取り組む。	B	①企業組合と連携を行い、本校の作業学習等への助言を受ける場の設定を検討している。 ②生徒の現状や支援の仕方等については、学校全体で情報共有を行うことができている。また、SC、SSWの活用についても積極的に行うことができている。 ※不登校解消事業:1件 ※登校渋り対応事業:3件 ③県のGIGAスクールサポーターを活用しながら、教員対象にChromebookの活用方法の研修を実施することができた。	B	①「キャリア教育戦略会議」については、2月となつてしまい、授業づくりに生かすことができなかった。(2/16)に実施予定、4社参加) ②引き続き、不登校の未然防止・登校渋りの解消に向けての取組を継続していく。 ③教師・生徒間の双方向通信の授業の実施に関して、引き続きGIGAスクールサポーターから、効果的なアプリケーションソフト等の導入について、指導・助言を受ける。	B	・教師の専門性を向上させるためにも「キャリア教育戦略会議」を早い時期に開催することは必要と思われる。また、外部評価をどのように活用していくかが大事だと思う。 ・年間計画の中にキャリア教育を取り入れていく必要がある。⇒現在行っている職業や作業学習について説明を行った。 ・不登校傾向や登校渋りのある生徒の状態の改善が見られた。 ※「キャリア教育戦略会議」で得た外部からの助言がまだ学習活動に反映することができていないが、不登校傾向の生徒が減少してきているので「Bー評価」でいいのではないかとと思う。	①「キャリア教育戦略会議」については、開催時期・回数・協議内容についてさらに検討を深め、キャリア教育の視点に基づいた授業づくり・授業改善に生かせるよう、実施に努めていく(専門家からの助言・評価を取り入れる)。 ②不登校傾向のある生徒への対応については、今後も学級担任を中心としながら、SC・SSWを活用した取組を進めていく。 ③Chromebookや電子黒板の活用方法については、GIGAスクールサポーターから授業参観を通じて助言を受け、ICT機器の活用能力の向上につなげていく。 ○本校の進路指導の基礎となる事項について、全教職員で今一同確認する必要がある(転入者対応、再確認)。	
			キャリア教育の充実	生徒一人一人のニーズに応じた職業教育を系統的に実施し、将来の職業生活や社会生活に必要な力を育成する。	【現状】 ①希望する進路先への就労はほぼ実現することができている。 ②JSP制度を活用し、外部専門家から生徒たちに対して、職業能力(知識・技能等)向上のための指導・助言を受けている。 ③学校での学習実態と現場実習先での実態を総合的に判断し、次の目標(ステップ)に向けた指導・支援の構築及び保護者との連携に向けた取組の充実を図っていく必要がある。 ④入学者の増加を見越して、新規作業種の再検討が必要である。 ⑤これからの社会生活において、異文化や異人種の理解をすすめる国際理解力の育成が必要である。 【評価指標】 ①日頃の授業や現場実習での学びを通して、知識・技能及び自己認識等を深めていながら自己実現(進路確定100%)を目指すとともに、一般就労率を80%とすることができたか。 ②作業学習において、知識・技能等の能力の向上を図るとともに、取組の精度を高めることができたか。 ③より実用的なステップアップシートの作成及びステップアップシートの有効活用を進めることができたか。 ④教育課程検討委員会、新規作業種の検討を進めて行くことができたか。 ⑤将来の社会生活に向けて、社会や英語の授業を通して、外国の文化や国際情勢についての理解を深めることができたか。	①生徒が希望する進路先を見つけることができるように情報提供を積極的に行うとともに、新規の実習・進路先の確保に取り組む(50件以上を目指す)。 ②JSP制度を活用し、生徒に対して外部専門家から、継続した職業能力(知識・技能等)向上のための指導・助言を受ける。 ③学級及び作業班でそれぞれの生徒の強みと課題を共有したうえで、以後の実習等において統一した取組を行っていく。また、実習後、事業所より得られた評価から強み及び課題を確認し、学級、作業班、保護者間で共通理解を図り、個々の生徒のキャリア発達のためのPDCAサイクルを回す。 ④カリキュラムの編成と教場の整備計画を進めるとともに、作業内容の検討を行っていく。 ⑤新聞、ニュース等で報じられている題材を社会の授業で取り上げる。また、英語の授業では、ALTを活用して外国の文化に親しむ場面を設定するなどして、国際理解教育を進める。	B	①8月末現在における、新規の実習・進路先の確保は、17件となっている。(新規開拓29件)また、卒業生へのアフターケアについては、適宜、行うことができている(8月末現在で38件)。 ②アビリンピックや技能検定に向けての練習を教育課程上に取り入れながら行うことができている。また、結果をもとに授業で一般化を行い、スキルアップにつなげることができている。【技能検定1級取得(清掃部門7名、接客部門8名)・アビリンピック入賞者(銀賞3名、銅賞3名、努力賞1名)】 ③1学期の現場実習で得られた情報をもとに、生徒のキャリア発達を促すステップアップシートを作成することができた。 ④新規作業種の検討については、まだ十分に行うことができていない。 ⑤社会における情報機器の発展や活用について授業で取り上げることができている。また、外国の文化への理解については、ALTを活用しながら取り組むことができている。	B	①コロナ禍であるが、引き続き就職アドバイザーと連携し、新規の実習・進路先の開拓を行うことができた(374件:うち新規開拓72件)。アフターケアについても適宜、行うことができた(年:144件)。(R5.2月1日現在) ・一般就労(平日を含む):64.2% ②年間を通してJSP制度を活用し、外部専門家からの助言(年:環境サービス6回、物流実務6回、フードビジネス8回)を受け、生徒の職業能力向上を図ることができた。成果として、技能検定等において多くの1級等の取得者を輩出できた。 ③ステップアップシートを活用して、生徒・教師・保護者で指導方法の方向性を合わせることで、今後活用しながら改善を加えていきたい。 ④新規作業種を検討するうえで、雇用の可能性が高い職種を中心に考えることが重要であるが、新型コロナウイルス感染症の影響で実習・進路先に変化があり、具体的な作業種の検討は進んでいない。 ⑤外国の文化や国際情勢について理解を深める国際理解教育を引き続き進めていく。	B	・校外での清掃作業で、職場の清掃にまでもついている。清掃だけではなく、気持ちよく挨拶をしてもらい感謝している。 ・最近では、社会性において多様な生徒が増えているように感じており、それぞれの生徒に対してどのようなことに気を付けながら支援をしていけばいいかを念頭に置くことが大事だと思う。 ・JSP制度では、年間4回高知みかづき分校にお菓子の作り方を教えるに来ていた。新型コロナウイルス感染症の影響で販売が制限され、モチベーションを保つものにも大変だったと思う。その中でも先生方は、一生懸命指導されていると思うし、衛生面も含め目標は十分に達成できているのではないかとと思う。 ・ステップアップシートを活用した指導、家庭との情報共有を今後も続けて行ってもらいたい。 ※目標がある程度達成できていると思われるので「B評価」でいいのではないかとと思う。
学校設定項目	防災・防犯教育の充実	南海トラフ巨大地震や火災、不審者、弾道ミサイル発射への応の見直しを行い、防災・防犯・危機管理意識の向上を目指す。	【現状】 防災・防犯マニュアルはあるが、十分な訓練は実施できていない。 【評価指標】 防災・防犯マニュアル等を現状に合わせて見直し、実践的な訓練を実施することができたか。	①防災・防犯マニュアル等の見直しについては、外部専門家の助言をいただきながら、作成を行う。 ②高知ろう学校と連携しながら合同の避難訓練等を計画し、より実践的な訓練を実施する。	B	①県教育委員会と連携を取りながら防災・防犯マニュアルの見直しを行うことができていく。 ②高知ろう学校との合同避難訓練については、令和5年2月実施を予定している。	B	①実践的な訓練のため、生徒の休み時間に訓練を実施し、全体の動きを確認することができた。 ②高知ろう学校と合同で避難訓練を実施することができた。また、具体的に困難事例への対応を検討することができた。	B	・防災訓練は、繰り返し行うことが大切である。いろいろな場面を想定してシミュレーションできると良いと思う。高知ろう学校と連携した訓練も引き続き行っていく。 ※目標がある程度達成できていると思われるので「B評価」でいいのではないかとと思う。	①様々な危機的場面を設定し、より実践的な訓練や体験を取り入れ、危機対応能力の向上を図るとともに、訓練後の反省から、各マニュアルの改善に取り組む。 ②高知ろう学校との合同避難訓練を充実させ、課題の洗い出しを行う(放送・避難経路・避難場所 等)	
		地域貢献の推進	地域における清掃活動やボランティア活動等の貢献活動を通して、生徒の自己肯定感を高めるとともに、働くことに対する意欲を育てていく。また、環境教育にも取り組み、環境問題に対する意識を育てていく。	【現状】 地域における清掃等の貢献活動及び地域行事への参加活動は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、十分にはできていない。 【評価指標】 新型コロナウイルス感染症の状況を確認しながら、地域への貢献活動(清掃、イベント参加)を推進していくことができたか。また、清掃活動を通して環境問題についての理解を深めることができたか。	①地域の感染状況を確認しながら、可能な限り地域の清掃活動やボランティア活動を実施していくことで、本校の取組をアピールし、障害者に対する理解・啓発に努める。 ②生徒会に働きかけながら、生徒たちによる主体的な貢献活動を形成していく。 ③環境問題を意識しながら商店街の清掃活動に取り組む、ごみの分別方法について定着を図っていく。	B	①公民館及び駅周辺については、週1回程度、清掃活動を行うことができた。 ※新型コロナウイルス感染症拡大のため、活動に制限があるが、その中でも感染対策を行いながらできることを探しつつ、取り組んでいる。 ②生徒会を中心に週1回の挨拶運動を行うことができていく。 ③環境教育の観点を意識しながら、今後とも地域清掃活動に取り組んでいく。	B	①感染症対策を見据え、十分な感染症対策を講じたうえで、実施可能な範囲で清掃活動等に取り組んでいる。 ②生徒会による主体的な貢献活動を引き続き行っていく。 ③SDGsの目標を意識した取組を各教科等で取り上げながら実践して行く。	B	①感染症対策を講じたうえで、地域での清掃活動を行うことができた(年:32回実施)。 ②生徒会が中心になり、毎週水曜日に正門前であいさつ運動を実施することができた。 ③職業科(作業学習)、家庭科において、環境教育を主体としたSDGsの取組を行うことができたが、他教科への拡大には至っていない。	B
働き方改革		ワーク・ライフバランスを考え、健康で活性化された職場づくりに努める。	【現状】 ①業務多の偏りにより多忙な教員がいるとともに、分掌業務の引継ぎ等の役割分担に課題がある。 ②指導案・教材等の共有化のための整理がまだ不十分である。 ③グループウェアを効率的に活用することができていない。 【評価指標】 ①分掌業務の役割の平準化と引継ぎ体制の構築を進めることができたか。 ②全ての教師が学習指導案や教材等のデータを共有し、更にそれらを活用しやすいように教材フォルダの整理・充実を図ることができたか。 ③全教職員がグループウェアを積極的に活用できるようになったか。	①分掌業務の平準化を図り、引継ぎを行うため、各分掌に副部長を配置する。 ②「教材フォルダ」内のフォルダやファイル名(日付・内容を記入する等)を統一し、更に活用しやすいものに精選していくことで、全教職員の共有財産化を進め、業務の効率化を図る。 ③グループウェアの活用方法(スケジュール管理、掲示板活用、教室・備品の使用予約等)についての学習会を開催し、全教職員のスキルアップを図る。	C	①各分掌業務の引継ぎについては、確実に行えるように副部長的なポジションを設置することができている。 ②業務の効率化を図るため、「教材フォルダ」内のフォルダやファイル名(日付・内容を記入する等)の統一に取り組んでいる。時間外勤務については、月40時間以下を守ることができている。 ③グループウェアの活用はできつつある。また、更なる活用推進のため、学習会を予定している。	B	①分掌業務の平準化及び業務内容の見直しを行っていく。 ②「教材フォルダ」の充実を進めるとともに、利便性が高まる管理に取り組んでいく。 ③グループウェアの有効活用を引き続き推進していく。	B	・教職員が少人数のため、業務の重なりが出てしまうことがあるが、業務の平準化のために各分掌の配置人数も含め、検討が必要がある。 ・「教材フォルダ」の保存、活用については、業務改善のためにも大事である。 ※各分掌業務の引継ぎは、できてきているが業務の平準化はまだできていないので、「Bー評価」でいいのではないかとと思う。	①各分掌の業務内容について、取り出し確認を行い、それぞれの業務の担当分掌や配置人数について再検討する。 ②年度初めに「教材フォルダ」に関する周知及び活用状況の確認・把握のためのアンケートの実施が必要と考える。 ③グループウェアの積極的な活用のために、各種機能の使用法の理解に取り組む必要がある。新しく付加される機能等についても学習会を実施していく。	

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)